

tragen の概念構造とメタファー Konzeptuelle Struktur und Metapher von *tragen*

岡 本 順 治

0. 序

当論文では、ドイツ語の動詞 *tragen* の意味分析を試みる¹⁾。すでに岡本(1986)で、一部の分析が示されているが、そこで用いられた Jackendoff (1983) の枠組みに拘わらず、ここでは *tragen* という動詞の意味を文の意味との関係で捉えると同時に、文の概念構造と、それに基づくメタファーのメカニズムを解明する²⁾。

「概念」とは、「構造化された知識の集合」と考えられる。ここでは、ドイツ語における *tragen* という単一の語彙項目を複数の概念に分析することにより、それぞれの読み (Lesart) が基本的に部分的共通構造を持つことを示す。以下、概念名を []、その概念の属する意味場に固有の意味役割を < > で示す。

「メタファー」を、ここでは「ある概念を類似した別の概念によって定義すること」と考えることにする。Lakoff/Johnson (1980) が示したように、多くの概念は、「より明確に定義される概念構造を部分的に継ぐことにより構成されている」³⁾ と仮定できる。従来、語彙項目の多義性と考えられてきた複数の読みも、このような概念構造とメタファーの観点から再構成することにより、統一的に説明できる可能性が開けるものと期待できる。

1. 問題提起

次の2つの文を比較してみよう。

- (1) Hans trägt einen Koffer. (ハンスはスーツケースを持って行く。)
 (2) Hans trägt eine Brille. (ハンスはメガネをかけている。)

(1), (2) は、共に同じ統語環境を持っているが、(1)は[移動]を意味し、(2)は[状態]を表している。統語構造と意味にもし1対1の関係が存在すると仮定するならば、(1), (2)で用いられている *tragen* は、同形であっても別の意味を持つことになる。確かに、継続性という観点から、(1), (2)の文に "Seit zwei Jahren" (この2年来) という句をつけた(1)', (2)'を比較すると(1)'の文は意味的に逸脱しているように思われる。

- (1)' # Seit zwei Jahren trägt Hans einen Koffer.
 (この2年来、ハンスはスーツケースを持って行く。)
 (2)' Seit zwei Jahren trägt Hans eine Brille.
 (この2年来、ハンスはメガネをかけている。)

しかし、ここで考えなければならないのは、なぜ(1)'を[状態]と解釈できないかという

点である。「この2年来、ハンスはずっとスーツケースを持ったままである」という解釈も文脈さえ許容すれば可能ではないだろうか⁴⁾。次の(3)の例はどのように解釈されるだろうか？

(3) Hans trug eine Brille zum Augenarzt.

”Zum Augenarzt” (眼医者へ) という<到達点>を示す句が存在するため、(3)の文は通常〔移動〕と解釈されるが、”Zum Augenarzt” を削除すれば、(3)の例文は一義的に〔状態〕を示すはずである。(3)の例は、「メガネをかけた状態で眼医者へ行った」という少し無理な解釈もできなくない。このように、〔移動〕と〔状態〕は、*tragen* の概念構造の中では無関係ではないことが推測できる。裏を返して言えば、同じ NP_NP という統語環境で〔移動〕か〔状態〕かを区別する決め手は、目的語の NP が<主題> (この場合は移動対象物) として解釈されやすいか、あるいは身体に〔接する〕<物>として解釈されやすいかといった名詞の概念の志向性に依存すると言える。

2. *tragen* の概念構造分析

2.1. 「移動の *tragen*」

動詞 *tragen* の現れる統語環境は、次の8個に大別できる。

- 1) NP_
- 2) NP_AP
- 3) NP_NP [AKK]
- 4) NP_NP [AKK] AP
- 5) NP_NP [AKK] PP [DAT]
- 6) NP_NP [AKK] PP [AKK]
- 7) NP_NP [AKK] PP [AKK] PP [AKK]
- 8) NP_NP [AKK] PP [DAT] PP [AKK] PP [AKK]

の中で、〔移動〕を表すことができるのは、3), 5), 6), 7), 8) の各タイプであるが、意味役割という観点から「移動の *tragen*」の構造を示すと以下のようなになる。

- A. TRAGEN (<<行為者>,
 MOVE (<<主題>,
 <起点>,
 <行程>,
 <到達点>,
 <様態>))

「移動の *tragen*」は、〔動かす行為〕の下位概念で、ある行為の遂行される以前に<起点>に存在した<主題>が、行為の完了後には<到達点>へ<行為者>と共に移動することを含意する。これは、それぞれの例文を過去形あるいは現在完了形に変えることによって得られた文を比較することによって確かめられる。例えば、(4)は、(4-a), (4-b) の事態を共に

含意する。

(4) Hans trug das Essen aus der Küche ins Zimmer.

(ハンスは食事を台所から部屋へ運んだ。)

(4-a) Hans war in der Küche. Das Essen war in der Küche.

(ハンスは台所にいた。食事は、台所にあった。)

(4-b) Hans ist jetzt im Zimmer. Das Essen ist jetzt im Zimmer.

(ハンスは、今、部屋にいる。食事は、今、部屋にある。)

(4) は、〈起点〉が“aus der Küche”, 〈到達点〉が“ins Zimmer”として表れたタイプ 7) の例である。前置詞句の形で現れるドイツ語の〈起点〉表現は通常、対格の名詞句を従えるが、意味的に〈到達点〉を含む“zu”のような前置詞の時は、タイプ 5) のように与格名詞句をとれる。タイプ 5) で、〔移動〕を表す例として(5), (6)を挙げておく。

(5) Hans trug den Koffer zum Bahnhof.

(ハンスはスーツケースを駅へ運んだ。)

(6) Hans trug den Koffer aus dem Zimmer.

(ハンスは部屋からスーツケースを持ってきた。)

タイプ 6) の前置詞句には、〈起点〉を表すものと、〈行程〉を表すものがあり、それぞれの例として(7), (8)を示す。またタイプ 8) の例は、(9)である。

(7) Hans trug den Koffer ins Zimmer. (ハンスはスーツケースを部屋へ運んだ。)

(8) Hans trug den Koffer über den Hof.

(ハンスは中庭を通してスーツケースを持って行った。)

(9) Steffi trug das Essen aus dem Küche über den Hof ins Zimmer.

(シュテフィは食事を台所から中庭を通して部屋まで運んだ。)

さて、〈行為者〉、〈主題〉のそれぞれが〈起点〉から〈到達点〉に移動する「移動の *tragen*」の意味を概念構造として表すために、〈様態〉の拡張を行おう。「移動の *tragen*」は、〈行為者〉と〈主題〉が CONTACT (接している) 状態にあるといえる。構造関係をつかむため、意味役割に変数を用いて次のように概念構造を記述する。

A-1. TRPGEN (〈行為者, v〉,

MOVE (〈主題, w〉,

〈起点, x〉,

〈行程, y〉,

〈到達点, z〉,

〈様態: CONTACT (〈物, w〉,

〈場所, v〉)))⁵⁾

一方、タイプ 5) は、前置詞句によって〈主題〉の存在場所をより明確にするために多く用いられていると考えられる。(10)の例では、〈場所〉と〈物〉の関係が PART-OF (の一部)⁶⁾、(11)の例では、これまでの例のように CONTACT の関係が見られる。

- (10) Hans trägt den Koffer auf dem Rücken.
 in der Hand.
 auf dem Kopf.

(ハンスは自分の背中にのせて／頭のにせて／手で持ってスーツケースを運ぶ。)

- (11) Steffi trägt eine Katze im Korb.

(シュテフィはバスケットに入れて／リュックサックに入れて猫を持ち歩く。)

2.2. 「状態の *tragen*」

〔状態〕を表す *tragen* は、タイプ 1) と 3) である。タイプ 4) の例として(12)～(15)を見てみよう。

- (12) Steffi trägt ein ausgeschnittenes Kleid.

(シュテフィは、胸ぐりの大きくあいたドレスを着ている。)

- (13) Vier Säulen tragen das Dach. (4本の柱が屋根を支えている。)

- (14) Das Paket trägt den Stempel der Zollbehörde.

(その小包には税関のスタンプが押してある。)

- (15) Die Brücke trägt nur 3 Tonnen.

(その橋はたった3トンの重さにしか耐えられない。)

(12)～(14)の例は、「移動の *tragen*」の〈様態〉に含まれていた〔状態〕の意味を共通に持っている。従って、この3例を見る限り、Bのような概念構造を想定できる。

B. TRAGEN (<主体者, v>,

<様態: CONTACT (<物, w>,

<場所, v>>)

(12)では、「シュテフィの所にドレスが」、(13)では「屋根が4本の柱に」、(14)では「税関のスタンプが小包に」接している状態として表現されている。(15)の例は、一見Bの構造に基づいて説明できないように見える。なぜなら、目的語のNPが“3 Tonnen”(3トン)という〔重量〕を表している様に思えるからだ。しかし、“3 Tonnen”はもともと数量詞であり特定の名詞の数量を表すので((16), (17)参照), ここでも「3トンの重さの物」と考えられ、よってやはりBの構造を反映していると見なせる。

- (16) *eine Tonne Kohlen* (1トンの石炭)

- (17) *ein Schiff von 50,000 Tonnen* (5万トンの船)

タイプ 1) の例としては(18), (19), (20)がある。これらの例はいずれもタイプ 3)の派生形であり、(18)は例えば“*einen Erwachsenen*”(一人の大人), (19)は, “*ein Kalb*”(子牛)(20)は, “*Früchte*”(果実)を目的語のNPとしてそれぞれの文の後に補うことができる。

- (18) *Das Eis trägt schon.* (その氷は, もう乗っても大丈夫だ。)

- (19) *Die Kuh trägt.* (その雌牛は, はらんでいる。)

- (20) *Der Baum trägt nicht.* (その木は実をつけていない。)

<様 態 : CONTACT (<物, w>, <場所, v>)>>>

2.4. 「特性の *tragen*」

タイプ 2), 4) の *tragen* は、特性を表すことができる。この中で、4) は、目的語に再帰代名詞をとる。(23), (24) は 2) のタイプ, (25), (26) は 4) のタイプの例である。

- (23) Ihre Stimme trägt sehr gut. (彼女の声は、とてもよく通る。)
 (24) Das Geschütz trägt weit. (その大砲は射程が長い。)
 (25) Diese Dame trägt sich einfach. (この婦人は質素な身なりをしている。)
 (26) Der Koffer trägt sich leicht. (そのスーツケースは、たやすく持ち運べる。)

(24) は、「移動の *tragen*」の部分構造を備えている。つまり、移動する物である<主題>が主語の NP として現れ、その〔様態〕が AP となっている。ただし、実際に移動する物は直接表現されず、移動物と CONTACT 関係にある "Geschütz" が主語 NP となっている。一方、(23) は、(24) とほぼ同様の構造を持つと考えられるが、"Stimme" (声) が移動対象物となっており、〔音〕の特性を〔移動〕によって表現したメタファーと考えることができる。以下に、(24) の概念構造と(23) の概念構造を示す。

D-1. TRAGEN (<特性 : MOVE (<主題, ϕ >, <到達点 : 距離, y>, <様 態 : CONTACT (<物, ϕ >, <場所, z>)>>>>)⁹⁾

D-2. TRAGEN (<特性 : MOVE_m (<主題, x>, <到達点 : 様態, y>, <様 態 : PART-OF (<物, x>, <主体者, z>)>>>>)

(25) は、「状態の *tragen*」の「服を身に付けている」例と酷似しているが、目的語の名詞が再帰化しているため、身に付けている〔物〕が現れていない。それに対して、(26) は「移動の *tragen*」の<主題>が主語の NP となっている。いずれみ場合も、〔様態〕を〔特性〕として叙述していると説明できる。(25) の構造を D-3, (26) の構造を D-4 として記述できる。

D-3. TRAGEN (特性 : HAVE (<物, x>, <特性, y>)>>, <様態 : CONTACT (<物, ϕ >, <場所, x>)>>)

D-4. TRAGEN (<特性 : FOR (<動作主, ϕ >, : HAVE (<物, x>, <特性, y>)>>, MOVE (<主題, x>, <様態 : CONTACT (<物, x>,

<場所, φ>>>))

D-3 では、「身に付けている物」が表現されていないかわりに「様態」が焦点となっている。他方、D-4 では、<主題>が隠され、<動作主>にとっての<主題>の特性が表現されている。

3. 結 論

結果として概念構造上、4種類の *tragen* が分類できたが、これらはいずれも部分的ながら共通の構造を持つことを当論文では示した。とりわけ、<様態>の構造が基本的にすべての例に含まれていると考えられることは重要な特徴である。また、「移動」という人間行動の中の直接体験から得られる概念⁹⁾が、*tragen* という動詞1つとってみてもメタファーとして広く転用されていることも確認された。ここでは、熟語化している表現、特殊構文化したもの、派生語などは扱わなかったが、おそらくここで問題にした概念構造がなんらかの形で関係しているものと思われる。統語環境と意味の関係は、否定しがたいものがあるが、ここで見てきた概念構造は、表層上の統語範疇を超えて基本的文構造の決定権を持つことを示唆している。これまでの統語環境と概念構造の種類をまとめてみると、次のようになる。

- | | | | |
|---|---|---|-----|
| 1) NP_ | B | | |
| 2) NP_AP | | | D |
| 3) NP_NP [AKK] | A | B | |
| 4) NP_NP [AKK] AP | | | C D |
| 5) NP_NP [AKK] PP [DAT] | A | | |
| 6) NP_NP [AKK] PP [AKK] | A | | |
| 7) NP_NP [AKK] PP [AKK] PP [AKK] | A | | |
| 8) NP_NP [AKK] PP [AKK] PP [AKK] PP [AKK] | A | | |

注

- 1) 当論文は、岡本 (1986) を出発点とし、論理文法研究会ならびに信州大学教養部内の研究会での口頭発表をもとに加筆、発展させたものである。インフォーマントとしては、E. Meuthen 氏、及び A. Lauffenburger 氏にお世話になった。この場を借て、改めて感謝の意を表したい。
- 2) Jackendoff (1983) は、統語論と意味論の準同形を保たねばならないと主張しながら、それが実際には守られていない。ここでは、厳密な形式化は避け、むしろ言語データとの関係で率直な表記を用いることにした。「意味役割」と「意味場」との関係は、本来明示的に示すべき事柄であるが、ここでは直感的な理解の範囲に留めた。なお、Jackendoff (1983) のさらに多くの体系的批判については、Verkuyl (1985) を参照のこと。
- 3) 基本的考えは、Lakoff/Johnson (1980) p.117にある。
 “Rather, what we are claiming about grounding is that we typically conceptualize the nonphysical *in terms of* the physical — that is, we conceptualize the less clearly delineated in terms of the more clearly delineated.”
- 4) 実際に(1)'の“Seit zwei Jahren”を、“Seit zwei Stunden”(この2時間)に変えると、問題なく

容認できる文になる。ただし、[移動]の<到達点>を表す句を入れると、意味的に逸脱する。

- i) Seit zwei Stunden trägt Hans einen Koffer.
 ii) # Seit zwei Stunden trägt Hans einen Koffer zum Bahnhof.
- 5) ここでは、<様態>が CONTACT (接している) という<状態>のメタファーとして用いられていることを、: (コロンの) を使って表している。
- 6) A-1 の概念構造の CONTACT を PART-OF に変えることにより A-2 という概念構造が設定できる。場所に関する拡張は、[物] に関してはかなり自由に行える、例えば、i) の例文では、目的語の NP の存在する場所と、<到達点>を同時に表現している。
 iii) Die Sanitäter trugen den Verletzten auf einer Bahre zum Krankenhaus.
 (救護員達は負傷者を担架に乗せて病院へ運んだ。)
- 7) 比喩的な表現として普通取り上げられるものは、ここでは混乱をさけるため、敢て扱わなかった。例えば、ii) の主語の「畑」は、明らかに [生き物] のように捉えられている。つまり、(19)、(20) と平行関係にあると言える。
 iv) Der Acker trägt Weizen. (その畑には、小麦ができる。)
 当論文で扱っているのは、もっと基本的な概念レベルで用いられるメタファーである。例えば、A-1 では<行為者>が、<場所>としても概念構造で捉えられている。
- 8) ϕ は、空を表す。また、<到達点: 距離, y>では、<距離>として<到達点>が表されていることを意味する。
- 9) [移動] が基本的な概念を構成していることは、Miller/Johnson-Laird (1976), pp. 526-558 にも詳しい解説がある。

参 考 文 献

- Agricola, E. (Hrsg.) *Wörter und Wendungen : Wörterbuch zum deutschen Sprachgebrauch*. VEB Bibliographisches Institut : Leipzig, 1977.
- Der große Duden : Stilwörterbuch*. Bibliographisches Institut : Mannheim, 1970.
- Duden : Das große Wörterbuch der deutschen Sprache*. Bibliographisches Institut : Mannheim, 1981.
- Helbig, G./W. Schenkel. *Wörterbuch zur Valenz und Distribution deutscher Verben*. VEB Bibliographisches Institut : Leipzig, 1978.
- Jackendoff, R. "Toward an Explanatory Semantic Representation." *Linguistic Inquiry* 7.1. (1976), pp. 89-150.
- Jackendoff, R. *Semantics and Cognition*. MIT Press : Cambridge, Mass., 1983.
- Klappenbach, R./W. Steinitz. *Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache*. Akademie-Verlag : Berlin, 1980.
- Lakoff, G./M. Johnson. *Metaphrs We Live By*. The Univ. of Chicago Press : Chicago. 1980.
- Miller, G./P. N. Johnson-Laird. *Language and Perception*. The Belknap Press of Harvard Univ. Press : Cambridge, Mass., 1976.
- Verkuyl, H. J. "Thematic Relations and Semantic Representation of Verbs Expressing Change." *Studies in Language*. 2.2. (1978), pp. 199-233.
- Verkuyl, H. J. "On Semantics without Logic : Review of R. J. Jackendoff, *Semantics and cognition*." *Lingua* 68. (1985), pp. 59-90.
- 岡本 順治 「翻訳の為の意味解釈について : 概念構造分析の試み」 *Symposion 1*. (1986) : 同学社, pp. 29-42.